



YURIHAMA
湯梨浜中学校だより
三智創造



令和7年3月11日
第34号 文責 梅原憲和
〒689-0737
湯梨浜町大字長江51番地
TEL (0858) 47-5500

ご卒業おめでとうございます ~令和6年度卒業式 式辞~

寒暖を繰り返しながらもしだいに暖かくなり、少しずつ春の訪れを感じる季節となりました。本日ここに、宮脇正道町長様、山田直樹教育長様をはじめ、たくさんのご来賓、保護者・ご家族の皆様のご臨席を賜り、令和6年度第6回湯梨浜町立湯梨浜中学校卒業式を挙行できますことに、心から感謝申しあげます。



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私がみなさんと出会って、早二年が経とうとしています。この二年間、みなさんが日々いろいろなことに挑戦し成長していく様子を間近で見ることができ、本当に幸せでした。湯梨浜中学校に赴任した二年前、朝玄閣であいさつ運動をしているとき、遅刻してきたある卒業生に注意の声かけをしようとしたら、元気に「校長先生、おはようございます」とあいさつをされ、そのさわやかさに驚き、ついつい注意し損なったことがありました。出会ったばかりのできごとで、あの時のあの生徒が誰だったのかは思い出せませんが、あの生徒のさわやかで憎めない人柄は、今年の卒業生のみなさん象徴しているような気がします。また、私とみなさんとのつながりのひとつにホームページの存在がありました。「校長先生、昨日調子が悪かったんですか?」「どうして知ってるの?」「だってホームページが更新されていなかったから」とか、「校長先生、最近私ホームページにあまり出ていないんですよ。どうしてですか?」「ごめんね、誰を掲載したか記録にとってないので」とか、「校長先生、写真は斜め後ろの角度から撮ってください」「斜め後ろだと顔がわからないから、真後ろと一緒にじゃないの」とか、ホームページのことでたくさんの会話をさせていただきました。そんな君たちの言葉が私のホームページ更新の原動力になっていました。本当にありがとう。

さて、みなさんの卒業を前に、そのホームページを見返し、今年のみなさんの活動を振り返ってみました。5月に関西へと出かけた修学旅行では、長いバス移動にもかかわらず、バスガイドさんが話をすると必ず誰かが反応していました。バスガイドさんもとてもガイドがしやすかったと思います。まだまだ夏の暑さの残る運動会でも、学年に関係なく声をからして声援を送る君たちの姿に、やはりとてもさわやかな気持ちを感じました。そして、人権劇と合唱に力を注いだ文化祭。私自身も初めての経験だったクラスごとのリレー形式での人権劇、さすが3年生と感じさせるクラス合唱。そして何より、私個人としては開祭式での生徒会企画に誘っていただき、久々に担任のようにみなさんと行事に参加できたことが大きな思い出になりました。また、その後の中部地区文化祭における
(裏面に続く)

ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



学年合唱は圧巻でした。人数の多さもさることながら、あの歌声の迫力には思わず鳥肌が立ちました。それ以外にも、日々の授業や部活動に頑張り、大会等でも優秀な成績を残してきたみなさんの活躍は、この湯梨浜中学校の歴史に大きな一ページを刻んでくれたものと感謝しています。

そんなみなさんに、最後に私からひとつの言葉を贈りたいと思います。どんな言葉を贈ろうか、いろいろと考えたり、調べたりしたのですが、やはり私の大好きな相田みつをさんの「しあわせは いつも じぶんのところが きめる」という言葉にしました。私たち人間は、日常ではあまり起こらない幸運なできごとが起こると自然に幸せを感じます。しかし逆に、地震等の災害が起こり、日常の「あたりまえ」の生活が奪われてしまうと、それまでの日常がいかに恵まれていたのか、幸せだったのかということに気づくことがあります。人が幸せを感じる感覚は、人によって、そして状況によって大きく異なるのです。「しあわせは いつも じぶんのところが きめる」のです。ただ間違いなく、毎日の「あたりまえ」の日常に普段から感謝できる人の方がずっと幸せに生きることができると思います。みなさんには、幸せな人生を送ってほしい。だからこそ、「毎日食事ができ、寝泊まりできる家があること。自分のことを心から心配してくれる家族がいること。自分が話したいと思ったときに、話を聞ってくれる友だちがいること」、そんな「あたりまえ」の日常に感謝できる人であってほしいと思います。みなさんの幸せを心から祈っています。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。この三年間、子どもたちは思春期を迎え心身ともに不安定な時期もあり、学校生活においてもご心配をおかけしたこともあったと思いますが、こうしてたくましく、立派に成長されたお子様の姿を目の当たりにされ、感慨もひとしおのことと思います。これまで、保護者の皆様方が日頃から注いでこられた愛情の深さに心から敬意を表しますとともに、これまでの湯梨浜中学校に対するご理解とご支援に教職員を代表して感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生のみなさん、いよいよお別れの時です。今後みなさんは、自分たちが選択したそれぞれの道へと次の一步を踏み出すことになります。今後もたくさんの選択を迫られ、その度に悩み、その選択が正しかったのかどうか不安になることもあると思います。しかし、人生に正解などというものはありません。自分の選択を自分の頑張りで正解にしていくしかないのです。頑張れ、卒業生諸君。みなさんの前途に、幸多きことを願い、式辞といたします。

令和七年三月十一日

湯梨浜町立湯梨浜中学校
校長 梅原 憲和